

經濟財政諮問會議（令和3年第9回）
成長戦略會議（第12回）
議事録

内閣府政策統括官（經濟財政運営担当）

経済財政諮問会議（平成３年第９回）
成長戦略会議（第12回）
議事次第

日 時：令和３年６月18日（金）17:33～17:54
場 所：総理大臣官邸２階大ホール

１．開 会

２．議 事

- （１）経済財政運営と改革の基本方針2021（案）
- （２）成長戦略実行計画案

３．閉 会

（西村議員） それでは、ただ今から「経済財政諮問会議」と「成長戦略会議」の合同会議を開催いたします。

本日の議題は「経済財政運営と改革の基本方針」、いわゆる「骨太方針2021」と「成長戦略実行計画」についてです。

○経済財政運営と改革の基本方針2021（案）

（西村議員） 最初の議題は、「骨太方針2021」です。

資料1にありますとおり、総理から諮問いただいているものです。なお、骨太方針の副題につきましては、総理の御意見を頂きまして「日本の未来を拓く4つの原動力～グリーン、デジタル、活力ある地方創り、少子化対策～」としております。

それでは、この骨太方針の答申案につきまして、赤澤内閣府副大臣から説明いたします。

（赤澤内閣府副大臣） 資料2をご覧ください。

本日は、前回の経済財政諮問会議での議論や与党での審議などを踏まえた主な変更点を御説明申し上げます。

まず第1章において、5ページの4行目をご覧ください。ワクチン接種について、希望する全ての対象者への接種を本年10月から11月にかけて終わることを明記しました。

次に6ページの18行目をご覧ください。雇用調整助成金についてですが、引き続き感染が拡大している地域、特に業況が厳しい企業に配慮する旨を修正しました。

24行目、雇用保険について、セーフティネットを十分に発揮できるよう、その財政運営の在り方を検討する旨を追記しました。

次に第2章におきましては、17ページの12行目をご覧ください。子供の視点に立った政策を推進することを明記しました。

私からの説明は以上です。

（西村議員） ただ今説明のありました答申案について、御発言を頂きます。

まず新浪議員、お願いします。

（新浪議員） ありがとうございます。

短期間に大変なこの骨太方針を調整いただきまして、本当にありがとうございます。

特にこれまで申し上げてまいりました最低賃金につきましては、早期に全国平均を1,000円に向けて継続的な引上げは行われていく、このモメンタムづくりを是非行っていただきたいというように思います。また、同一労働同一賃金、大変重要でございます。これも実施ができるようお願い申し上げたいと思います。

そしてNPOを活用した子供の貧困化や孤立・孤独等の問題にしっかりと取り組む。そして、これを機会に地方へのしっかりとした分散を行い、東京一極集中を回

避していく、こういったことを政府一丸としてお願いしたいと思います。

今日はとりわけ感染症対策についてお話を申し上げたいと思います。途上国を中心とした開発の加速や温暖化によって、20世紀以降、新しいウイルスが世界に蔓延をしていると。そして、グローバル化がゆえにますます蔓延をしてきたと、こういう実態だと思っています。そして、これがまた起こってくるということが間違いないというように思います。カーボンニュートラルをいち早く達成する、そして、温暖化を防止していく。これはもう大変重要でございますが、一方で、感染症の発生要因の一つである過度な途上国による開発、こういったことをやめてもらうことも不可欠。こういった意味で、是非ともG20の場で積極的に日本が取り上げていただきたいと思います、このように思います。

他方、日本経済社会の安定・発展の生命線であるグローバル化を止めるというのは日本にとっては国策上、大変難しくむしろ日本はグローバル化を進展させる役割を担っていると、このように思います。再びパンデミックが日本に来てしまう。この前提を持って日本の感染症への対応力を強靱な、レジリエントな社会にしていくことが危急の課題だと、このように思います。

骨太方針案にも明記いただいているように国産ワクチンの開発・生産体制の強化と必要な財源を思い切って確保していただきたいと、このように思います。また、様々な事情でワクチンを打てない、または打たないという方々もおられますが、ワクチンの効果が完璧でもない部分もございます。是非ともイノベティブな治療薬の開発もできる体制づくりをしていただきたいと思います。このように治療薬の研究開発の支援や早期承認の仕組み構築など、是非とも取り組んでいただきたいと思っています。

そして、ワクチンパスポートを早期に導入していただきたい。外需の取り込み、大変重要です。日本がここに遅れますと経済の回復もより遅れるということになりますから、一刻も早く実用化をお願いしたいと思います。

財政の健全化についてもお話を申し上げたいと思います。財政健全化については、何といってもデジタルの活用がキーであります。特に社会保障分野については一気呵成に進めるべきで、生産性を上げ、低コストに質の良いサービスができる、これはデジタルあってのことだと思います。早期に構築していくことが重要だと、このように思います。その上で、これもデジタル活用の一環であります。データを活用したEBPMに基づくワイズスペンディングの徹底が必要であり、改めてその重要性を申し上げたいと思います。

最後に、骨太方針38ページに記載されております専門調査会の設置についてでございます。繰り返しになりますが、経済社会、生活面でデジタル社会や民間活力、特に民間活力の徹底活用、戦略的な対外経済関係の構築といった将来のあるべき経済社会に向けた構造改革、対外経済関係の基本的な考え方、言わば超骨太方針と言

うべきものについて経済財政諮問会議としてしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

以上であります。ありがとうございました。

（西村議員）　ありがとうございます。

続いて、柳川議員、お願いします。

（柳川議員）　調整をしっかりと進めていただいて、このようにまとまったことに感謝いたします。今まで繰り返し申し上げてきたことが多いのですが、いくつかポイントをお話しさせていただきます。

一つは、財政健全化をしっかりと堅持していくこと、その上で、世界の大きな構造変化に合わせて新しい経済システムを構築し、潜在成長率をしっかりと引き上げていくこと。それこそが将来の安心につながることであり、この冒頭の副題にある、グリーン、デジタル、活力ある地方創り、少子化対策という4つの柱を重点的に行っていくことが重要だと思っております。

そのときにやはり大事なことは、これも何度が申し上げていますが、スピード感が決定的に重要で、いつまでたっても実行できないということではなく、しっかりと実行していくことが大事だと思いますし、先ほど新浪議員からもお話がありました。デジタル化を活用してEBPMをしっかりと進めていく。もう少し言えば、プロセス管理あるいは成果の管理をそれによってしっかりと行っていくことが大事だと思っており、その点で言えば、大きな枠組みの変化をしっかりと捉えた政策づくりが望まれているというのがポイントでございます。

個別のところでは、若い世代、子ども・子育て世代の安心を作っていくということがこれからの経済の活性化の鍵なのだろうと思っております。その点で言えば、この4つの柱の中の連携が重要であり、例えば活力ある地域ということでは二地域居住、二地域就労、ワーケーションをずっと強調してまいりました。このワーケーションを進めていくときに、やはりお子さんがいらっしゃる家庭もあるわけで、そうすると、例えば保育で、もともと居住しているところで園に入っているのと、ワーケーションで行ったところで子供が幼稚園に入れるのかどうか、保育を受けられるのかどうかというところの課題が出てまいります。

この点は、例えばワーケーションだけではなくて里帰り出産で長期間地元に戻って出産するときも同じでございます。そういうところの柔軟性をしっかりと確保し、安心した子育て、安心した二地域就労ができる環境を作っていくことが重要だと思います。

最後に、これも何度も申し上げていることですが、やはり人材育成が非常に大きな鍵でございます。安心や安定性の確保という意味で言えば、非正規の方で離職してしまった方が、市場のニーズに合った能力をしっかりと身につけていく。それはみんなが安心して働けるようになるための大きなポイントだと思います。

で、そのために、例えば求職支援制度などをしっかり強化していくということも記載していますが、これらを推進していくことが大事だと考えております。

以上でございます。

（西村議員） ありがとうございます。

それでは、お手元の答申案を経済財政諮問会議として答申することを決定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

（西村議員） ありがとうございます。

それでは、本案を答申として決定いたします。

○成長戦略実行計画案

（西村議員） 続いて、2つ目の議題、成長戦略実行計画についてです。

赤澤副大臣から説明いたします。

（赤澤内閣府副大臣） 資料3をご覧ください。

本日は2日の成長戦略会議以降の主な変更点を御説明申し上げます。

6ページですが、地方自治体のデジタル化を推進するため、地方自治体間の人材の共有を図ることを追記しました。

9ページです。原子力産業について、現在のエネルギー基本計画の記載に沿って人材育成などを追記しました。エネルギー基本計画の見直しについては、今、正に御議論いただいているところですので、新たな記述は入れてません。

12ページ、第4章の2において、カーボンニュートラルに伴う電化とデジタル技術の関係について追記しました。昨年12月に取りまとめていただいた実行計画の文章をそのまま記載をしています。

13ページ、産業構造の変化に伴う労働移動の円滑化を図るためにも、働き方改革を推進する旨を追記しました。

次に21ページですが、新規株式公開における価格設定プロセスの見直しについて、趣旨をより明確にするため、我が国ではサラリーマンの年金などの資金が投資されにくい状況となっていると表現を変更させていただきました。

次に25ページですが、公正取引委員会の唱導について、意味を分かりやすくするため、提言のことである旨、追記をしました。

次は28ページです。ワクチンの国内での開発・生産について、財源を安定的に確保する旨を追記しました。また、医薬品産業の成長戦略として薬剤耐性対策の推進も追記させていただきました。

29ページをご覧くださいまして、予防・健康づくりに加え、重症化予防への支援

を追記しました。さらに、医薬品産業のエコシステムを確立するため、政府の司令塔機能を確立することを明記しております。

私からの説明は以上です。

（西村議員） それでは、取りまとめ案につきまして御発言を頂きます。

まず三村氏、お願いします。

（三村氏） ありがとうございます。

今回の成長戦略は、経済や医療の安全保障、大都市への人口集中、気候変動・大規模災害など、コロナ禍を契機に顕在化した社会経済課題の解決を目指しつつ、同時に成長による経済力強化のための幅広い政策が織り込まれました。「社会経済課題の解決」と「成長による経済力強化」を車の両輪として同時に追い求める内容となっており、このことを高く評価したいと思います。是非ともスピード感を持って着実に実行していただきたいと思います。その上で3点述べさせていただきます。

第一に、デジタル化やグリーン対策を、成長の原動力として強力に推進すべきですが、その際、カーボンニュートラルの実現に向け、政府には、民間のイノベーションへの挑戦を力強く促す積極的な支援を求めたいと思います。また、増大する電力需要を賄い経済と環境の両立を実現するためには、原子力の活用が不可欠であると思います。安全性を最優先として再稼働、新增設、リプレースなどに真正面から取り組むべきと考えております。

第二に、生産性向上等に取り組む中小企業への支援、地方への人の流れの拡大、観光地の再生、農林水産業の成長産業化など、地域経済活性化のための的確な諸施策が出そろい、心強く思っております。なお、中小企業の円滑な事業再生が可能となるよう、私的整理のガイドライン策定等の対応を、できるだけ早期にお願いいたします。

第三に、実行計画の冒頭で、生産性向上の成果を賃金として分配し、事業拡大を通じた成長を図る「成長と分配の好循環」の道筋が明確に示されたことを高く評価いたします。その上で、最低賃金については、感染症の影響を受けて極めて厳しい経営環境の企業もある足下の状況を踏まえれば、今年も現行水準が維持されることを強く望むものであります。これから開催される中央及び地方の審議会において、客観的データに基づく慎重かつ公正な検討がなされることを強く期待しております。

以上であります。ありがとうございました。

（西村議員） ありがとうございます。

続いて、竹中氏、お願いします。

（竹中氏） ありがとうございます。

コロナ禍での迅速な取りまとめに感謝を申し上げます。先ほど決定された骨太方針に関しては、今回のコロナ禍で明らかになった問題点、例えば医療体制の課題で

ありますとか国と地方のガバナンスの問題、非常時における柔軟な対応の欠如などといった問題について、これを是正する措置を取るという姿勢が明確に示された点は高く評価されると思います。

その上で、成長戦略会議のほうで議論された、これは幅広い政策課題が議論されたわけですが、とりわけ2点についてコメントさせていただきます。

第一は、いわゆるS P A C市場の創設を念頭に検討を進めるということが明記された点であります。日本の産業界では、新陳代謝がなかなか進まない、とりわけスタートアップの力が弱いことが議論されてまいりました。これを解決するには多くのことが必要ですが、その一つとして、上場の機会をより柔軟に提供する新しいS P A C市場が世界的に注目をされております。これは上場に向けた時間的な制約を克服する手段であると同時に、今の仕組みでは上場時の値決めが低めになって企業の資金調達が制約される傾向があるという批判にも対応するものであります。投資家保護と両立させながら、是非この検討を早く進め、具体的にできれば年内でありますけれども、遅くとも年度内に方向性が示されることを期待しております。そのためのフォローアップも必要かと存じます。

第二は、これも産業の新陳代謝と関連しますが、日本では企業の退出コストが非常に高く、これを低くするための様々な工夫が必要なことであります。そのための一つの方策として、事業再編のための私的整理をより速やかに活用できることが期待されます。

今、コロナ禍で手厚い支援策が取られ、日本経済は失業率が低く、企業倒産も低く今のところ抑えられている。これは世界の中で見て極めて大きな成果と言えます。ただし、今後、ポストコロナの出口を考えると、過剰債務を抱えた企業の問題はいろいろな形で表面化すると思われます。

菅内閣のリーダーシップで、今、ワクチン接種がすさまじい勢いで加速し、イギリスやアメリカの例を見るようにこれは経済開発のスピードを予想以上に速めると思います。現実に国際機関は今年の経済見通しを大幅に上方修正しております。つまり、日本でもアフターコロナの局面を迎えるタイミングが従来の予想以上に早く訪れるだろうと考えられます。このような点も踏まえて、今回の成長戦略には私的整理の問題が提起されました。問題は、そのスピード感だと思います。早急に議論を詰めて、できれば来年の通常国会でそのための法案を提出し、その後、速やかにガイドラインが示されるよう、格段の御尽力を期待しています。

最後になりましたが、健全な競争政策の確立のために公正取引委員会のアドボカシー機能強化、そのための体制強化を是非お願いしたいところであります。ありがとうございます。

（西村議員） ありがとうございます。

それでは、お手元の案を成長戦略会議の取りまとめとしたいと思います。よろ

しいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

（西村議員） ありがとうございます。

なお、お手元の資料の一番後ろ、配付資料1として経済・財政一体改革推進委員会の名簿をお配りしております。新たに十倉議員に加わっていただき、今後、骨太方針2021に沿った経済・財政一体改革の議論を進めていただきたいというように思います。よろしくお願いいたします。それでは、よろしいですか。

それでは、最後に、総理から締めくくりの御発言を頂きます。プレスの入室をお願いします。

（報道関係者入室）

（西村議員） 菅総理、よろしくお願いいたします。

（菅議長） 本日は、骨太方針と成長戦略実行計画を取りまとめていただきました。

骨太方針では、まずは新型コロナ対策に最優先で取り組みながら、特にグリーン、デジタル、活力ある地方創り、少子化対策、この4つの課題に重点的な投資を行い、長年の課題に答えを出し、力強い成長を目指してまいります。このため、副題は「日本の未来を拓く4つの原動力」としました。

感染症によって言わば有事の状況となった場合の病床の確保、早期の治療薬やワクチンの実用化などについて、法的措置を速やかに検討します。

賃上げによって経済を底上げし、新型コロナの中で拡大した格差を是正するため、最低賃金について、より早期に全国平均1,000円とすることを目指し、引上げに取り組めます。さらに、こども庁の創設に向けて、来月上旬には検討チームを立ち上げます。

成長志向の政策を進めながら、「経済あつての財政」の考え方で、財政健全化の目標を堅持し、これまでの歳出改革努力を続けてまいります。

成長戦略実行計画では、正に成長戦略の具体策として、グリーン14分野に係る投資や研究開発、フリーランスの働く環境整備、経済安全保障のためのデジタル政策、SPAC制度の導入などスタートアップ支援、などを盛り込んでおります。

本日、お示しした政策については、今後の予算編成や制度改正において具体化を行い、スピーディーに実現してまいります。引き続き皆様の御協力をお願いします。

（西村議員） プレスの御退室をお願いいたします。

（報道関係者退室）

（西村議員） 本日、この後の臨時閣議におきまして「骨太方針2021」と「成長戦略実行計画」を閣議決定する運びとなります。取りまとめに御尽力、御協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

以上をもちまして本日の会議を終了いたします。